

ウタツサウルス

ウタツサウルス・ハタイは、宮城県南三陸町（旧歌津町）に分布する前期三畳紀の大沢層から1970年に発見され、1978年に新種として命名された原始的な魚竜類です。「ウタツサウルス」は発見地の歌津町に、「ハタイ」は東北大学名誉教授の故・畑井小虎氏にそれぞれちなんでいます。

ウタツサウルスは、トカゲのように細長い胴体や前鰭とほぼ同じ大きさの後ろ鰭をもっているほか、四肢を構成する骨や尾が長いなど、より進化した魚竜類に比べると

陸生だった祖先の面影を残した姿をしていました。また、進化した魚竜がもつ背鰭はまだなかったかもしれません。それらの原始的な特徴をもつ一方で、骨の組織やモデルによるシミュレーションの研究から、この最古級の魚竜類が既に恒温性の代謝を獲得し、活発に外洋を泳ぎ回っていたのではないかと考えられています。これは、魚竜類の水生適応が前期三畳紀の非常に短い期間に進んだ証拠ともいえます。



ウタツサウルス・ハタイの完模式標本（左）と副模式標本（右）、両者は別の個体であり、完模式標本は亜成体の頭部～胴部、副模式標本は成体の尾部

